

AMDA 地震の被災地 悪い衛生状態

インドネシア活動報告

二〇〇四年十二月のスマトラ沖地震の被災地インドネシアで復興支援活動に当たっている国際医療ボランティアAMDA（本部・岡山市櫛津）の派遣メンバー二人が一時帰国し、十七日、岡山市内で報告会を開いた。

帰国したのは小林恵美子アジアグループ統括と林朋宏業務調整員。スマトラ島西方のニアス島で活動していた。

二人は、地震に伴う津



インドネシアでの復興支援活動を報告するAMDAメンバー

波や、その三カ月後に起きた地震で被災した同島住宅を建設したプロジェクト

クトを説明。資材運搬のための道路を住民と一緒に整備したことなどを紹介した。

現地はまだ被害が尾を引き衛生状態が良くないことにも触れ「引き続き学校・家庭用トイレなどの整備、衛生教育の普及を図りたい」と話した。

このほか、昨年十二月に同国を襲った豪雨による洪水被害について、AMDA職員が説明。現地の医師、看護師と緊急医療チームを結成し医療支援を継続していることが報告された。（松山慎二）